

大竹市公立保育所等の再編における大竹地区施設整備計画(案)について

1 概要

平成30年12月に策定した「大竹市公立保育所等再編基本方針」(以下「基本方針」という。)に基づき、大竹地区の公立保育所(大竹保育所及び本町保育所)の再編については、令和6年度までに完了することとしている。

【基本方針に基づく再編の方向性(想定されるパターン)】

	大竹保育所	本町保育所	備考
パターン1	統合		施設の位置(統合の場合)・規模・運営方法・認定こども園化等は保育需要や民間動向等を踏まえて検討
パターン2	現状維持	民営化	
パターン3	民営化	民営化	

2 大竹地区の現況

(1) 地区の範囲

北栄, 東栄, 西栄, 南栄, 本町, 元町, 新町, 白石, 油見, 木野

(2) 0～5歳人口の状況(各年4月1日現在)

(単位:人)

年	年 齢						計	市全体
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳		
H27	104	102	99	103	101	97	606	1,231
H28	92	107	114	107	103	109	632	1,245
H29	107	99	104	110	99	103	622	1,226
H30	104	106	100	102	114	98	624	1,204
H31	91	110	103	98	103	112	617	1,135
R2	98	89	109	103	101	101	601	1,083

※平成28年度以降,市全体の0～5歳人口の半数超を大竹地区が占めている。

(3) 保育施設の状況

(単位:人)

施設名	公・私	種別	所在地	認可定員 (保育認定)	入所児童数 (R2.4.1)
大竹保育所	公立	保育所	白石一丁目	90	97
本町保育所	公立	保育所	本町一丁目	80	63
ひまわりさかえ こども園	私立	幼保連携型 認定こども園	西栄三丁目	150	149
※入所児童数は,他市町村からの広域 入所受託児童を含む。				計	320
				(参考)市全体	615
					309
					574

3 公立保育所に係る現状と課題

(1) 待機児童と保育士不足の解消

少子化の一方で女性の就業率の上昇等により、3歳未満児の入所希望が増加傾向にあり、平成29・30年度に待機児童が発生した。令和元年度においては、国定義の待機児童は発生していないが、施設の立地や開所時間等の問題から希望の施設に入れない児童が急増している。

また、全国的に保育の需要が高まる中、保育士の確保が難しい状況となっており、年度途中の入所希望に対し、保育士が不足しているため、児童の受入れができない状況が続いている。

【待機児童数の状況】

(単位：人)

種別	H29.10月	H30.10月	R1.10月	R2.4月
待機児童	11	3	0	0
入所未決定児童	1	5	19	5

※ 児童数はいずれも3歳未満の児童

【入所児童数の状況】

(単位：人)

施設名	年齢別	H29		H30		R1		R2
		4/1	3/1	4/1	3/1	4/1	3/1	4/1
大竹保育所	3歳未満	36	40	35	37	38	39	37
	3歳以上	65	69	65	66	61	62	61
	計	101	109	100	103	99	101	98
本町保育所	3歳未満	11	12	14	17	17	18	23
	3歳以上	49	51	44	49	51	51	40
	計	60	63	58	66	68	69	63

※ 保育士の確保が難しいため、年度途中から入所希望に十分対応ができない。

(2) 保育士の配置状況

公立保育所では、保育士の正職率が低く、約3割となっている。特に、大竹保育所では、正職率が極めて低い水準となっており、組織の運営体制等の観点から、正規職員の比率向上が必要となっている。

【保育士の配置状況】

(単位：人)

施設名	種別	H29	H30	R1	R2
大竹保育所	正規職員	4	4	4	4
	臨時職員	13.5	12	11	12
	計	17.5	16	15	16
	正職率(%)	22.9%	25.0%	26.7%	25.0%
本町保育所	正規職員	4	3	4	4
	臨時職員	3	6	5	7
	計	7	9	9	11
	正職率(%)	57.1%	33.3%	44.4%	36.4%

※ 正規職員の数、所長、再任用職員を除く。

※ 臨時職員の数、早出居残り保育士、代替保育士を除く。

(3) 施設の老朽化

大竹保育所は公立保育所の中で最も新しい施設であるが、建設から34年経過し、施設の老朽化が進行する中で、良好な保育環境及び児童の安全を確保するための整備が必要となっている。

本町保育所は築45年で、耐震基準は満たしているものの、雨漏りや壁・床などの劣化損傷に加え、平成30年度には老朽化による水道管の損傷により一時的に施設が使用不可となるなど、児童の安全確保及び維持管理費の増加が課題となっている。

【保育所の概要】

施設別	建築年度	経過年数	構造	延床面積	園庭面積	耐震性能
大竹保育所	昭和60年	34年	RC	938.74 m ²	1,500.00 m ²	新基準
本町保育所	昭和49年	45年	RC	917.57 m ²	550.26 m ²	旧基準 (耐震診断済)

(4) 駐車スペースの不足

本市の公立保育所は、全て住宅密集地に立地しており、大竹保育所は5台の駐車スペースを確保しているが、入所児童に対して明らかに少なく、また、本町保育所は、敷地内に駐車場が確保されていないため、送迎時間帯に周辺道路の混雑が発生し、路上駐車も多発しており、事故発生リスクや周辺住民の生活環境にも影響を及ぼしていることから、新たな駐車スペースを確保する必要が生じている。

(5) 多様な保育ニーズへの対応

施設設備が建設当初のままであり、0歳児保育、延長保育、一時預かり、障害児保育など、多様化する保育ニーズに対応するための施設整備が課題となっている。

また、民間施設よりも開所時間が短いなど、保護者の就労状況等に十分対応できていないため、大竹地区全体では、開所時間の長い(19時15分まで)ひまわりさかえこども園に希望が集中する傾向にある。

【特別保育事業等の実施状況】

施設名	区分	開所時間 (延長保育時間)	利用 年齢	乳児 保育	一時 預かり	延長 保育	障害児 保育
大竹保育所	公立	平日 7:30~18:30 土曜 7:30~15:00	0歳~	有	—	—	有
本町保育所	公立	平日 7:30~18:00 土曜 7:30~18:00	1歳~	—	有 1歳~	—	有
ひまわりさ かえこども 園	民間	平日 7:15~18:15 (18:15~19:15) 土曜 7:15~18:15 (18:15~19:15)	0歳~	有	有 0歳~	有	有

(6) 施設整備に係る財源不足

施設整備に係る国庫補助金は民間施設に限定されており、公立施設には整備に係る国庫補助財源がないことを踏まえ、大竹地区の再編に当たっては、可能な限り一般財源の抑制を検討する必要がある。

4 大竹地区施設整備計画（案）

人口集中地区である大竹地区の保育の必要量を、公立・私立合わせて適切に確保するとともに、施設整備に係る費用を可能な限り抑制しつつ、現在の公立施設の課題を解消しながら保育サービスの充実を図るため、施設整備計画を次のとおりとする。

【公立施設】

- 1 本町保育所を大竹保育所に統合し、受入体制の拡充、開所時間の延長や多様な保育ニーズへの対応を図る。
- 2 統合後の定員は、大竹保育所の収容可能人数の **120名以内**とし、民間施設の規模や他施設の状況等を踏まえて設定する。
- 3 統合後の施設の位置は、現大竹保育所とする。
- 4 大竹保育所の施設整備は、駐車場の整備や乳児保育室の整備等、現施設が抱える課題の解消及び保育サービス充実のために必要な整備を行うものとする。

【民間施設】

- 1 新たに民間施設を誘致する。施設の規模（定員）は、**概ね 50名から 100名の間まで**とし、大竹地区の他施設とのバランスを考慮の上、決定する。また、第二期大竹市子ども・子育て支援事業計画における確保方策と整合を図るものとする。
- 2 事業者は公募とする。ただし、事業者が整備する施設の規模が、市が求める定員に満たない場合は、複数の民間施設の整備も検討する。
- 3 施設用地は事業者において土地を用意することとし、既存の保育施設の立地等を考慮の上、市の承認を得て決定するものとする。

5 施設整備スケジュール

別紙のとおり。

○施設整備スケジュール

